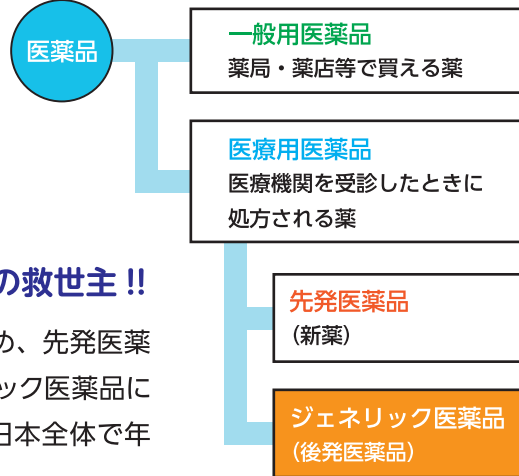


# ジェネリック医薬品を 活用しましょう!!

テレビのCMなどですっかりおなじみになったジェネリック医薬品。効能などの実力を認められている医薬品ですが、まだまだその普及は十分とはいえません。上手に利用すれば家計は大助かりで、国や健保の医療費抑制にも役立つジェネリック医薬品を積極的に活用しましょう。

## ジェネリック医薬品（後発医薬品）とは

先発医薬品の特許期間終了後に製造・販売されるもので、同じ成分、同じ効き目の薬であり、厚生労働省が先発医薬品と同等と認めた医薬品です。

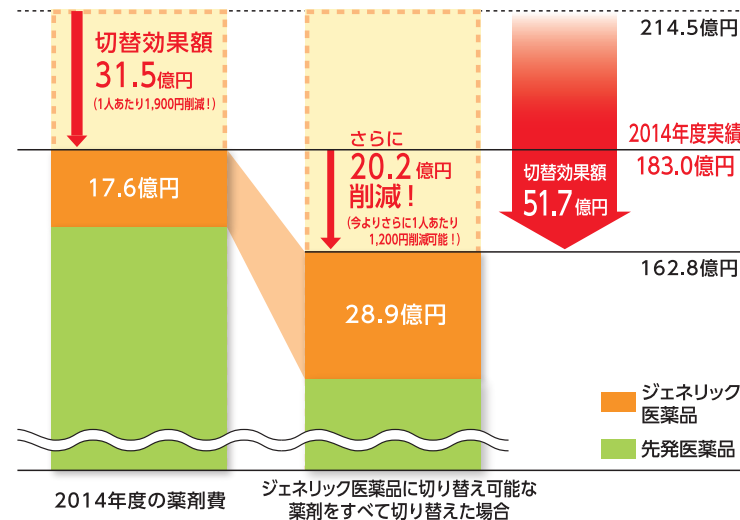


## ジェネリック医薬品は家計に優しく、医療費抑制の救世主!!

ジェネリック医薬品は研究・開発費が大幅にカットできるため、先発医薬品に比べて、3~5割も価格が安くなっています。ジェネリック医薬品に切り替えることで、入院で使用される薬などを含めると、日本全体で年間1兆円以上の医療費が削減できるとわれています。

## ジェネリック医薬品に切り替えた場合、NTT健保加入者1人あたり年間1,200円(家計負担額)の薬剤費の低減が可能!

NTT健康保険組合の2014年度の薬剤費は、183.0億円となりましたが、皆さまのジェネリック医薬品の利用により31.5億円の抑制(1人あたり1,900円の削減)が図られました。しかしながら、さらに、切り替え可能な薬剤を仮にすべてジェネリック医薬品に切り替えたとしたら、推計でさらに20.2億円の削減(さらに1人あたり1,200円の削減)が可能です。今後の薬剤費のさらなる削減に向け、ジェネリック医薬品の積極的な利用をよろしくお願いします。



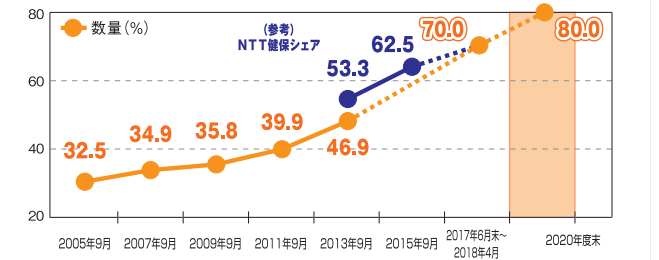
## 日本の国民病ともいわれる花粉症にもジェネリック医薬品!

推定患者数 3,300 万人(国民の4人に1人)ともいわれている花粉症にもジェネリック医薬品がありますので、これからの季節、ぜひご利用ください。スギとヒノキにアレルギーをお持ちの方は4カ月程度服薬を続けることになり、お薬によっては1年間で自己負担額が1万円以上軽減するケースもあります。

## ジェネリック医薬品の利用率は80%を目標としています!

日本国内でのジェネリック医薬品の利用率は、「2017年度に70%以上」「2018年度から2020年度末までの間のなるべく早い時期に80%以上」という政府目標を踏まえ、経年別にみると着実に伸びてきており、2013年度時点で46.9%となっています(数値はいずれも数量ベース)。また、NTT健康保険組合のジェネリック医薬品の利用率は2015年度9月時点で62.5%となっております。

## ジェネリック医薬品国内シェアの年次別推移



注) 数量シェアとは、「後発医薬品のある先発医薬品」および「後発医薬品」を分母とした「後発医薬品」の数量シェアをいう。  
厚生労働省調べ

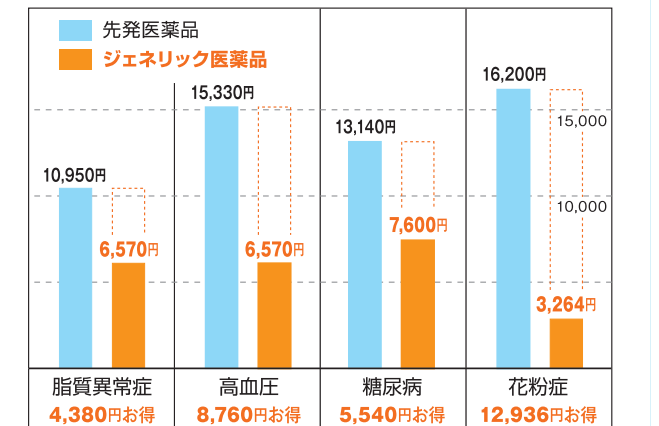
## 特にメリットが大きい慢性疾患

ジェネリック医薬品には、脂質異常症、高血圧、糖尿病の治療薬や抗生物質、抗がん剤、抗アレルギー剤など数多くあります。利用することでとりわけメリットが大きいのは、脂質異常症や高血圧症、糖尿病などの生活習慣病や花粉症などの慢性的な病気を患っている方たちです。これらの病気は長期にわたって薬を服用する必要があるため、大きく薬代を減らすことができます。

NTT健康保険組合では先発医薬品を処方されている方のうち、特にジェネリック医薬品への切り替えによりご本人負担が軽減される方に対し、個別にお知らせをしております。

## 自己負担額3割の場合の薬代の比較

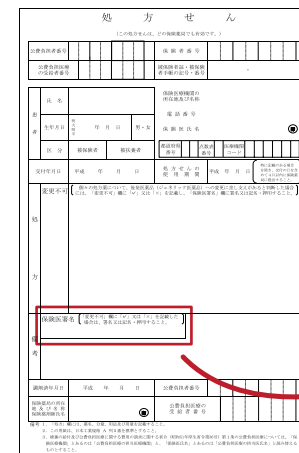
(代表的な薬を1年間服用したと仮定/薬代のみ。診察料等は含まない)



参考: 脂質異常症、高血圧、糖尿病の薬代については日本ジェネリック医薬品学会リーフレット「ご存知ですか?家計にやさしいお薬を!」(2012年4月での比較例)

## ジェネリック医薬品はどうすれば処方してもらえるの?

処方せんのジェネリック医薬品への『変更不可』の欄に医師のサインがなければ、薬剤師とご相談の上、ジェネリック医薬品を選ぶことができます。



保険医署名 [「変更不可」欄に「✓」又は「×」を記載した場合は、署名又は記名・押印すること。]

## ジェネリック医薬品への変更には、本誌(付録)についている「お願いシール」を利用しましょう!

ジェネリック医薬品への変更を医師や薬剤師に伝えにくい場合には、本誌に添付されている「お願いシール」を利用しましょう。使い方は、添付資料を参照してください。

